



日本ワクチン学会 ニュースレター

vol.18

目 次

1. 理事長就任挨拶
理事長 倉根 一郎……………2

2. ワクチン関連トピックス
 - 1) トピックス I 『沈降精製百日せきジフテリア破傷風ワクチン (DTaP) の追加接種臨床試験』……………2
 - 2) トピックス II 『予防接種法の抜本的な見直しに向けた取り組みについて』……………3

3. 第 14 回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ (第 2 報)
第 14 回学術集会会長 岡部 信彦……………4

4. 会員会告
 - 1) 2009 年度第 2 回日本ワクチン学会理事会議事録 (2009 年 9 月 25 日)……………4
 - 2) 第 13 回日本ワクチン学会総会議事録 (2009 年 9 月 26 日)……………7
 - 3) 2009 年度第 3 回日本ワクチン学会理事会議事録 (2009 年 9 月 27 日)……………8
 - 4) 2009 年度第 2 回 Vaccine 誌編集委員会議事録 (2009 年 9 月 27 日)……………8

§ 理事長就任挨拶

日本ワクチン学会理事長
倉根 一郎

平成 22 年 1 月 1 日をもって日本ワクチン学会の理事長に就任した国立感染症研究所の倉根一郎です。どうぞよろしくお願ひ致します。

日本ワクチン学会は平成 9 年の設立から 10 年以上過ぎました。この間、会員の努力により大きな発展を遂げてきました。ワクチン学会は基礎、臨床、疫学、製造、品質管理等、多種の分野の研究者がワクチン学を論じるユニークな学会です。各々の会員の視点はそれぞれの専門分野によって異なるかもしれませんが、日本のワクチン学発展にかける思いは一つです。各々の

学会員の思い、学会に対する期待に答えることができるよう力を尽くしていく所存です。

一方、このように多様な研究者から構成されていることは、大きな活力を生み出します。現在、ワクチンを取り巻く状況は学会設立時とは大きく異なってきています。日本ワクチン学会が日本においてワクチンを考える科学的基盤を与え、また社会においてワクチンに対する理解を深める推進力となれるよう会員の皆様と進みたいと思います。

§ ワクチン関連トピックス

トピックス I

沈降精製百日せきジフテリア破傷風ワクチン (DTaP) の追加接種臨床試験

— (DT) 接種時期における DTaP 接種の安全性と免疫原性の検討 —

日本ワクチン学会 ワクチン推進ワーキンググループ (中山哲夫、岡部信彦、神谷 齊)

2007 ~ 08 年にかけて成人百日咳の報告例数が増加してきた。成人百日咳は典型的な症状を認めることは少なく確実な診断法はなく成人百日咳の実態が明らかとなっていない。欧米では成人百日咳の増加とともに乳幼児への感染が明らかとなり米国では DTaP 初回免疫 3 回、初回免疫の追加接種 1 回、6 歳時の 5 回目の接種だけでなく 10 歳代を対象に破傷風の成分は同量で百日咳、ジフテリアの成分を減量させた Tdap ワクチンの追加接種を推奨している。我が国では乳幼児期の初回免疫と追加接種の計 4 回の接種以降は百日咳のコンポーネントを含んだワクチン接種は行われてなく成人に達するまでに追加接種を検討する必要がある。新たに Tdap を開発するには時間がかかるため現状の DT 接種を DTaP に変更し百日咳成分を含んだワクチンを追加接種することの有効性と安全性を評価するためにワクチン学会の中に設立されたワクチン推進ワーキンググループで臨床試験を立案し、平成 20 年 9 月から平成 21 年 8 月まで全国 29 の医療施設において 555 例の接種 (DT 0.1ml 群 197 例、DTaP0.2ml 群 178 例、DTaP 0.5ml 群 176 例) を行い安全性と免疫原性の検討をおこなった。

全身症状として発熱は DT 0.1ml 群で

8/197(4.1%)、DTaP 0.2ml 群 で 7/178 (3.9%)、DTaP 0.5ml 群で 7/176 (4.0%) と各群で差は認めなかった。何らかの局所反応を認めた例は DT 0.1ml 接種群 121/197(61.4%)、DTaP 0.2ml 接種群 で 123/178(69.1%)、DTaP 0.5ml 接種群 で 145/176(82.4%) で DTaP 0.2ml 群は DT 0.1ml 接種群に比べて腫脹の出現率が 1.31 倍高くなる以外には他の症状の出現頻度には差が認めなかった。一方、DTaP 0.5ml 接種群は DT 0.1ml 接種群に比べて発赤、腫脹の出現頻度は 1.33 倍、1.40 倍となり疼痛、熱感の出現頻度は 1.62 倍、1.59 倍となった。

接種前の感染防御レベル以上の抗体保有率は破傷風抗毒素では 90.6%であったが、PT 抗体で 54%、FHA 抗体でも 82%、ジフテリア抗毒素も 60.9%に低下しており接種後ではすべての抗体価は 98-100%が感染防御レベルを上回る良好な抗体反応を示した。接種後の PT、FHA 平均抗体価は DTaP 0.2ml 接種群と 0.5ml 接種群で有意差はなく、ジフテリア抗毒素の平均抗体価は DT 0.1ml 接種群と比較しても有意差は認めなかった。破傷風トキソイド抗体では DTaP 0.5ml 接種群では高い抗体レスポンスを示したが、DTaP 0.2 ml 接種群では DT 0.1ml 接種群と有意差は認めなかった。

DT 接種時期には百日咳に対する感染防御レベルの抗体保有者は 60%前後にまで低下しており百日咳成分を含んだワクチンの追加接種をしなければ各抗体レベルの低下は続き百日咳のコントロールはできないことから、現在の DT

0.1ml 接種を DTaP 0.2ml 接種に変更することで同等の安全性と有効な免疫原性を確認すると共に過剰免疫とはならないことが確認されたことから、DT 接種時期に DTaP が使用できることを望む。

トピックスⅡ

予防接種法の抜本的な見直しに向けた取り組みについて

厚生労働省健康局結核感染症課 坂本龍彦

現在、我が国では、予防接種法に基づき、感染症の発生とまん延の防止を目的として、ジフテリア、百日せき、破傷風、麻しん、風しん、ポリオ、日本脳炎、結核、インフルエンザの九つの疾患に対し、市町村を実施主体として、定期予防接種が行われている。

一方、昨今では、新しいワクチンの開発、導入が進む等、予防接種をとりまく環境は日々変化している。

厚生労働省においては、予防接種のあり方及び個別疾患に対する予防接種等について、これまで予防接種に関する検討会における議論や最新の知見等を踏まえつつ、公衆衛生に資する制度の構築を進めてきた。例えば、近年では、麻しんが、平成 19 年の春先から若年層の間に流行が見られたことを受け、平成 24 年までに日本国内からの麻しん患者の発症数を限りなくゼロに近づけることを目標に、予防対策に推進的に取り組むべき感染症として位置づけ、「麻しんに関する特定感染症予防指針」(平成 19 年 12 月 28

日第 442 号厚生労働省告示)を策定した。同指針に基づき、予防接種を推進するための具体的な施策の一環として、平成 20 年 4 月 1 日から、13 歳相当の者(中学校 1 年生相当)及び 18 歳相当の者(高校 3 年生相当)に対し、定期の予防接種を 5 年間の時限措置として実施している。

今般、平成 21 年 4 月の新型インフルエンザ(A/H1N1)の発生とその対策を契機として、「予防接種のあり方を全般的に見直すべき」との意見が多数寄せられたことから、同年 12 月に厚生科学審議会感染症分科会に予防接種部会を新たに設置し、各方面からの有識者による予防接種全般の在り方について検討を行うこととした。

同部会において、特に緊急に講ずべき措置として、今回の新型インフルエンザ対策について、平成 22 年 2 月に提言がとりまとめられたところであり、これを踏まえ、新たな臨時の予防接種の類型の創設等を内容とする予防接種法等改正案を国会に提出しているところである(平成 22 年 4 月 21 日現在)。今後、予防接種の目的や基本

(資料 1) 厚生科学審議会感染症分科会 予防接種部会における 今後議論が必要と考えられる主な事項

○ 今後、厚生科学審議会予防接種部会において、予防接種の目的や基本的な考え方、関係者の役割分担等について、予防接種制度の抜本的な見直しの議論を重ねていただき、それらを踏まえて対応を図る。

- (1) 予防接種法の対象となる疾病・ワクチンのあり方
 - ・ 予防接種法の対象となっていない疾病・ワクチンの評価や位置付け
 - 例：Hib(インフルエンザ菌b型)、肺炎球菌、HPV(ヒトパピローマウイルス)、水痘など
- (2) 予防接種事業の適正な実施の確保
 - ・ 国、ワクチン製造販売・流通業者、医療機関(医師)などの関係者の役割分担
 - ・ 予防接種により生ずる健康被害の救済制度、被害認定の方法、不服申し立て
 - ・ 接種の優先順位付けのあり方 等
- (3) 予防接種に関する情報提供のあり方
 - ・ 予防接種の意義や健康被害が生じる可能性等の情報提供のあり方
- (4) 接種費用の負担のあり方
 - ・ 予防接種の果たす役割や特徴等を踏まえた、その費用負担のあり方
- (5) 予防接種に関する評価・検討組織のあり方
 - ・ ワクチンの有効性及び安全性に関する調査研究・情報収集・評価の方法を推進する体制
 - ・ 諸外国の予防接種施策に関する検討組織と同様の組織を設けることの必要性
 - ・ その際の機能(権能)、構成メンバー、制度運営に当たる人員等の体制 等
- (6) ワクチンの研究開発の促進と生産基盤の確保のあり方
 - ・ ワクチンの研究開発や生産基盤の方策

資料 1

的な考え方、関係者の役割分担等について、予防接種制度の抜本的な見直しに向けた議論を重ねていただき(資料1参照)、それらを踏まえて法改正を含めた対応を進めていくこととしている。

なお、本学会の資料等については、厚生労働省のホームページに随時掲載しているところであり、本学会における議論の推移を見守っていただきたい。

§ 第14回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ (第2報)

平成22年12月11日(土)及び12日(日)の両日、東京都千代田区の九段会館において第14回日本ワクチン学会学術集会を開催いたします。

本学会は、わが国において、ワクチンに関連する基礎、臨床、疫学、製造などに携わる人々が一堂に会する学会であり、予防接種に関連した様々な課題について、新たな知見の発表と討論を行い、会員相互の交流と知識の普及・啓発を図るための重要な学術集会になっております。

とくに本年度の学術集会は、会長自身がわが国における予防接種のあり方に関する行政施策について科学的根拠を提供するという使命を持つ国立研究機関に所属していること、近年、ワクチン後進国あるいはワクチンギャップなどと国内外から指摘されている現状から、「ワクチン先進国に向けて」を基本理念としました。

データにより現状を把握し、科学的な根拠をもとに、予防接種と予防接種で予防可能な疾患について議論し、これらの疾患の国内からの排除や、予防接種に関する先進的な取り組みの国内への導入、公衆衛生学的な観点から予防接種を考えること、健康被害やその救済の今後のあり方などにも重点をおいて学会運営を図ることを意図しております。その成果は、必ずや日本の予防接種領域における研究と実施の発展に寄与するとともに、実際の感染症対策に結びついていくものと確信しております。

内容は、一般演題の他に、招請講演2題、特別講演1題、シンポジウム1：ワクチン先進国に向けて－わが国のこれからの流れ－、シンポジウム2：麻疹 Elimination！！－2012年はすぐそこに－、高橋賞受賞講演、教育セミナー(4～6題予定)、情報交換会を予定しております。

会員の皆様はじめ、ワクチンにご興味のある皆様におかれましては、是非、学術集会にご参加頂き、活発なご議論がくり広げられることを期待しております。12月の東京はイルミネーションも美しく、そちらの方でも十分にお楽しみいただけることと思います。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

会 長：岡部信彦(国立感染症研究所感染症情報センター長)

会 期：平成22年12月11日(土)～12日(日)

テーマ：ワクチン先進国に向けて

会 場：九段会館 〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-5 TEL：03-3261-5521

演題募集：すべてホームページ上で行います (<http://jsvac14.umin.jp/>)

一般演題応募締切日：2010年7月15日(木)

§ 2009年度第2回日本ワクチン学会理事会議事録

日 時：2009年9月25日(金) 17:30～19:30

場 所：ロイトン札幌 クリスタルルーム

出席者：山西弘一(理事長)、浅野喜造(副理事長)、高橋元秀、大隈邦夫、尾崎隆男、神谷 齊、石川豊数、岡田賢司、岡部信彦、谷口清州、多屋馨子、堀井俊宏 各理事
喜田 宏(会長)

倉田 毅、中山哲夫 監事 黒岩美緒(記録(株)春恒社)

欠席者：上田重晴、清野 宏、清水文七、田代真人 各理事

報告事項

1. 前回議事録の確認【資料：1】

山西弘一理事長から 2009 年度第 1 回理事会議事録の報告がなされ、承認された。

2. 一般経過報告【資料：2】

山西弘一理事長より 2009 年 8 月 31 日現在の会員数の現況を含む一般経過報告がなされた。

3. 高橋賞選考委員会報告【資料：3】

- 1) 山西理事長から高橋賞選考に関して応募が 1 件（田村慎一先生）あり、選考委員会での審議の結果、採択されたことが報告された。総会終了後、高橋賞受賞式と受賞講演が行われる。
- 2) 2010 年の高橋賞公募を 2009 年 11 月から 2010 年 3 月末まで行う。山西理事長より理事各位に来年度の候補者を積極的に推薦して下さるよう依頼があった。

4. 理事選挙結果について

山西弘一理事長から理事選挙結果及び選出された 7 名の新理事についての報告があった。新理事は、以下の各氏である。

中山哲夫（北里生命科学研究所）、倉根一郎（国立感染症研究所）、庵原俊昭（（独）国立病院機構三重病院）、宮崎千明（福岡市立西部療育センター）、城野洋一郎（（財）化学及血清療法研究所）、奥野良信（（財）阪大微生物病研究会）、廣田良夫（大阪市立大学）

5. 清水文七先生の理事ご辞退について

理事の清水文七先生（製造・開発系）より健康上の理由に理事職の辞退および学会退会の申請があり、検討した結果申し出を受理することとなった。

後任については現在会則に規定がないため、①清水理事の選出時の次点者、② 2010 年度よりの理事選出時の次点者、③後任選出を今回は行わない、という 3 案が提出され検討した結果、今回は②の方法を採択することとし、製造・開発系次点の鹿野真弓氏に就任委嘱をすることとなった。次回理事会に、規約に理事に欠員が生じた際の規約を加えることを申し入れることとした。

*理事会後、10 月 6 日付けで鹿野氏より理事就任の了解を得た。

6. 平成 21 年度一般会計中間報告【資料：6】

石川豊数財務担当理事から平成 21 年度一般会計および貸借対照表、財産目録の中間報告（2009 年 8 月 31 日現在）がなされた。

7. 石川財務担当理事より平成 20 年度高橋記念基金会計および貸借対照表、財産目録の中間報告がなされた。

8. 第 13 回日本ワクチン学会学術集会報告

喜田 宏会長から挨拶と第 11 回日本ワクチン学会学術集会会期中の企画・プログラムの紹介がなされた。

9. 第 14 回日本ワクチン学会学術集会報告

岡部信彦次期会長から準備状況の報告がされた。

会期：2010 年 12 月 11 日（土）～ 12 日（日） 会場：九段会館

10. Vaccine 誌編集委員会報告【資料：10】

岡部信彦担当理事（委員長）から 2009 年度第 1 回 Vaccine 議事録の内容と、Vaccine 誌掲載への進捗状況が報告された。

11. ニュースレター報告【資料：11】

- 1) 多屋馨子ニュースレター担当理事から Vol.17 の目次（案）について報告がされた。

- 2) 多屋理事から、三瀬勝利氏と大谷明先生の共著「ワクチンと予防接種の全て」の書評をニュースレターに掲載してほしいとの依頼が三瀬氏よりあったことが報告され、検討した結果、大谷先生の遺稿であり、今回に限ってニュースレターに紹介文を掲載することとなった。紹介文は岡部理事が担当する。

12. 広報委員会報告

リンク依頼のあった案件に対し対応を行った。

13. ワクチン推進ワーキンググループ活動報告

中山哲夫監事より順調に臨床試験が進み、第14回（2010年）学術集会にて結果を報告予定であることが報告された。

14. Vaccine 3rd Global Congress について【資料14】

清野宏担当理事より共同セッションの内容についての経過報告が書面でなされた。

日時：2009年10月4～6日 開催地：当初のタイからシンガポールに変更となった。

Flu Mucosal Vaccine を中心とした内容で構成し、スピーカーは日本、韓国、米国で構成する。

審議事項

1. 平成22年度一般会計予算案【資料：16】

石川財務担当理事から、日本ワクチン学会平成22年度一般会計予算案について説明がなされ、承認された。

2. 平成22年度高橋記念基金会計予算案について【資料：17】

石川財務担当理事から、日本ワクチン学会平成22年度高橋記念基金会計予算案について説明がなされ、承認された。

3. 第15回日本ワクチン学会学術集会

専門分野等を考慮し、第15回（次々期）会長の選出を投票にて行った結果、中山哲夫監事（北里生命科学研究所）理事会から第15回会長として第13回総会へ諮ることとなった。

4. 「ワクチン60周年史」の出版について【資料：19】

高橋元秀理事より、過去60年における日本国内のワクチン開発・製造及び品質管理等に関する歴史書物の編纂・出版について協力依頼があり、検討した結果、高橋理事を中心に行う方向で次期理事会に申し送ることとなった。

5. その他【資料：20】

- 1) 会員の高山直秀氏より、ワクチン学会から厚生労働省にワクチンの累積接種率調査についての要望書を出してほしいとの依頼があり、検討した結果、提出することとなった。今後、高山氏に厚生労働省宛の要望書を作成していただき、その内容を理事会（メール持ち回り）で検討した後、提出することとなった。
- 2) 日本で未承認のワクチンについて、ワクチン学会から厚生労働省に承認の要望書を提出してほしいとの依頼が3件あり、検討した結果、学会がユーザーの立場でないこと、また学会としてエビデンスが必要になることから今回は見送ることとし、次期理事会に申し送ることとした。

以上

平成21年9月25日（金）
日本ワクチン学会
理事長 山西弘一

§ 第 13 回日本ワクチン学会総会議事録（案）

日 時：平成 21 年 9 月 26 日（土）13：10～13：40

会 場：ロイトン札幌【ロイトンホール】

総会議長：第 13 回日本ワクチン学会学術集會会長 喜田 宏

1. 報告事項

1) 一般経過報告

山西弘一理事長から平成 21 年度活動状況・会員数現状報告の一般経過報告がなされた。

2) 理事選挙結果について

谷口清州理事から平成 21 年に行われた理事選挙の結果について報告があった。

就任期間：平成 22 年（2010 年）1 月 1 日～平成 25 年（2013 年）12 月 31 日（4 年間）

当選分野	氏名	所属先
基礎研究系	中山 哲夫	北里生命科学研究所
	倉根 一郎	国立感染症研究所
臨床応用系	庵原 俊昭	徳率行政法人国立病院機構 三重病院
	宮崎 千明	福岡市立西部療育センター
製造・開発系	城野 洋一郎	財団法人化学及血清療法研究所
	奥野 良信	財団法人阪大微生物病研究会
疫学系	廣田 良夫	大阪市立大学

3) 日本ワクチン学会高橋賞受賞について

山西弘一理事長から、高橋賞選考委員会で審議の結果、田村愼一先生に高橋賞が授与されることが決定し、この総会終了後、受賞式を執り行うことの報告があった。

2. 議 事

1) 平成 20 年度決算および平成 20 年度監査報告について

石川豊数理事から平成 20 年度決算報告がなされ、引き続き中山哲夫監事から平成 20 年度会計監査報告があり、平成 20 年度の決算案が承認された。

2) 平成 22 年度予算案について

石川豊数理事から平成 22 年度予算案について報告があり、承認された。

3) その他

特になし

3. 第 15 回学術集會会長の推挙

山西弘一理事長から第 15 回学術集會会長として、北里生命科学研究所 中山哲夫先生が推挙され、承認された。

4. 次期会長挨拶

第 13 回日本ワクチン学会学術集會 岡部信彦次期会長が欠席のため、代理で谷口清州理事より日程の案内があった。（会期：2010 年 12 月 11 日（土）～12 日（日） 会場：九段会館）

5. 第 13 回学術集會会長挨拶

第 13 回日本ワクチン学会学術集會 喜田 宏会長より挨拶があった。

6. 総会終了後、高橋賞授賞式が執り行われ、引き続き受賞講演がなされた。

第 4 回日本ワクチン学会高橋賞受賞者・受賞研究題名

田村 愼一 先生（国立感染症研究所感染病理部客員研究員）

受賞研究題名「経鼻インフルエンザワクチンの基礎的研究」

以上

平成 21 年 9 月 26 日
第 13 回日本ワクチン学会学術集會
会長 喜田 宏

§ 2009 年度第 3 回日本ワクチン学会理事会議事録

日 時：2009 年 9 月 27 日（日）7：30～8：30

場 所：ロイトン札幌エメラルドルーム

出席者：石川豊数，岡田賢司，尾崎隆男，清野 宏 各理事（2008～2011 年任期）
庵原俊博，城野洋一郎，中山哲夫，廣田良夫，宮崎千明 各理事（2010～2013 年任期）
山西弘一 理事長（司会）
黒岩美緒（株）春恒社

欠席者：岡部信彦，奥野良信，倉根一郎，高橋元秀，各理事

審議事項

1. 新理事長の選任
会則に従い新理事会にて新理事長の選任（投票）を行い、新理事長に倉根一郎理事が選出された。
倉根理事が欠席のため、山西理事長より投票結果を伝える。
2. 新役職の選任
新役職については、次回理事会で新理事長のもと選任する。
3. 次回理事会
次回の理事会は 2010 年（平成 22 年）3 月 13 日（土）の予定で調整する。
4. その他
理事会の定足数について会則に規定がないため新理事会で検討する。

以上

平成 21 年 9 月 27 日（日）
日本ワクチン学会
理事長 山西 弘一

§ 2009 年度第 2 回日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会議事録

日 時：2009 年 9 月 27 日（土）12 時 00 分～13 時 00 分

場 所：ロイトン札幌エメラルドルーム

出席者：【委員長】岡部信彦【委員】浅野喜造，荒川宜親（代理：高橋元秀），神谷 元，清野 宏，
熊谷卓司，谷口清州，多屋馨子，中山哲夫
【ワグサーバー】山西弘一
【記録】黒岩美緒（株）春恒社

欠席者：【委員】奥野良信，田代真人
【出版社】海老原実（エルゼビア・ジャパン（株））

1. 前回議事録の確認【資料：1】
岡部信彦委員長から前回議事録について報告がなされ、承認された。
2. Vaccine 誌への掲載原稿の進捗状況【資料：2】
以下の投稿原稿・原稿の進捗状況の報告がなされた。
 - 1) 2009 年度第 1 回委員会以降に掲載された原稿
第 11 回学術集会シンポジウム（上田先生、植田先生、中山先生、庵原先生）：Vol.27 Issue24
第 13 回学術集会学術集会開催案内：Vol.28 Issue31

- 2) 今後掲載予定のエルゼビア社入稿済み原稿
第12回学術集会ワークショップのうち、小西先生、森田先生の原稿の査読が終了し（担当：倉根先生）、エルゼビア社に入校したが、掲載は同ワークショップの他の原稿と合わせるためしばらく保留とする。
 - 3) 査読済み論文
医事新報社の原稿英訳（馬場先生）→再投稿待ち（本年中に再投稿くださるよう依頼する）
 - 4) 査読中論文
千葉靖男先生（第3回高橋賞）：岡部委員長が査読中
3. 今後の掲載予定について
- 1) 第1回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説（原稿担当：神谷先生）→投稿を依頼済み。
 - 2) 第2回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説（原稿担当：清野先生）→投稿を依頼済み。
 - 3) 馬場宏一先生の医事新報英訳 → 中山委員と宮田章子先生（熊谷委員よりの推薦）が査読を行ない、現在馬場先生が論文を修正中。年内の投稿を依頼し、次回委員会で検討する。
 - 4) 第11回学術集会シンポジウム → 岡部委員長、奥野委員分についてはすでに他の4編が掲載済みであるため、掲載は取りやめることとした。
 - 5) 第12回学術集会で行われたワークショップ「日本脳炎ワクチンの展望」の未投稿分著者に再度投稿を依頼する。なお、期限は本年内とする。
 - 6) 第4回高橋賞受賞者の田村先生に受賞研究についての総説の執筆依頼を行う。
 - 7) 第13回の3つのシンポジウム「自然免疫とワクチン」、「インフルエンザワクチン」、「動物用ワクチンの最新事情」について、熊谷委員から喜田先生をとおし、各座長にシンポジウムのまとめの執筆依頼を行うこととなった。また、各演者で review 執筆のできる人がいれば執筆いただくようあわせて各座長に依頼する。なお、原稿の締め切りは2010年2月末とし、次回委員会で各内容について検討することとする。
 - 8) 第13回ワークショップ「任意接種ワクチン」についてはドメスティックなテーマであるため見送ることとした。
 - 9) 今後、シンポジウムの演者を依頼する際、Vaccine 誌への review 投稿が可能かを合わせて聞くことが岡部委員長より提案された。
 - 10) 第14回学術集会アナウンス → プログラムが決まり次第原稿を作成いただく。
4. その他
- 1) 次回の委員会について
今回の委員会をもって委員の任期が終了する。次回理事会は新理事長と調整のうえ、3月の理事学会開催時に開催する予定である。

以上

平成21年（2009年）9月27日（日）
日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会
（担当理事）委員長 岡部信彦

§ 学会事務局変更のお知らせ

理事長の交代に伴いまして、平成 22 年 1 月 1 日より日本ワクチン学会事務局は、(独) 医薬基盤研究所から国立感染症研究所ウイルス第一部に変更となりました。なお、学会の連絡窓口は、従来通り(株) 春恒社 学会事業部内 日本ワクチン学会係で変更ありません。

日本ワクチン学会ニュースレター 第 18 号

2010 年 5 月 15 日発行

発行人 日本ワクチン学会

日本ワクチン学会事務局

〒 162-8640 東京都新宿区戸山 1-23-1 国立感染症研究所ウイルス第一部

日本ワクチン学会理事長 倉根 一郎

<http://www.jsvac.jp/>

<学会連絡先・入退会・住所変更・年会費>

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号

新宿ラムダックスビル 10 階

(株) 春恒社 学会事業部内

日本ワクチン学会係

TEL : 03-5291-6231/FAX : 03-5291-2176/ E-mail : jsvac@shunkosha.com
